

【MedTec Forum】 入学おめでとうございます。1回生からのメッセージ／講義・実習案内。

1回生(YA)

入学おめでとうございます。医療科学主専攻は2006年度入試から推薦入学と前期日程での募集となり、前期日程では高い倍率となりました。入試を突破された皆さんは医療科学に高い関心を持っていることと思います。ここでは、皆さんに良い大学生活のスタートを切っていただくために、医療科学主専攻の講義・実習について述べたいと思います。

私を含めて4年生は現在、卒業研究と臨床実習を行っています。卒業研究は3年生の3学期から始まり、臨床実習はこの4月から始まりました。臨床実習は3年間に学んできたことの集大成であり、臨床検査技師としての技術を習得することを目的としています。臨床検査技師は、生化学・生理学・血液学・免疫学・感染症(微生物学)・病理学・輸血学に分類される検査を行います。医療科学主専攻では、この7つの検査について理論と実践を学びます。生化学検査を例にとると、理論として「生化学」の講義があり、実践として「生化学成分検査学」および「生化学成分検査学実習」があります。また、皆さんが今学期に学ばれる「人体機能学」は生理学のことであり、「生理機能検査学」と「生理機能検査学実習」という実践の講義・実習が2年生以降に行われます。このように医療科学主専攻の講義・実習は、学年が上がるにつれて理論から実践へとシフトしていきます。

1年生はほぼ必修科目ですが、2年生になると選択科目が増えてきます。4系統・2系統・1系統の3つに分類される選択科目は、必修科目にはない別の視点から医学・医療を学んでいきます。選択科目は「担当の先生」と「教室」により分類することができます。「担当の先生」の学系で分けると、その科目がどのような学問体系に属するかが分かります。一方、行われる「教室」で分けると、医療科学主専攻の学生向けなのか他学類の学生向けなのかが分かります。例えば、「人類生態学」や「環境人間学」は看護・医療科学類棟ではないので他学類生向け、「福祉医用機器学」は看護学主専攻の教室なので看護学生向けというように分けられます。ここで強調したいことは、いろいろな科目を履修していただきたいということです。先に述べた「福祉医用機器学」は臨床検査と直接は関係ないですが、受講してみ

ると非常に興味深いものでした。また、学年が上がると自分が進みたい分野が決まってくると思いますが、例えば臨床検査技師を考えている人は基礎医学の科目も取ってみると、視野が広がると思います。2年生から始まる「分子生物学」、「遺伝情報学」、「細胞システム学」、「バイオテクノロジー総論」および「細胞・発生工学」という一連の基礎医学の科目をぜひ履修してみてください。

3年生から始まった卒業研究も4か月が経ち、4年生は春休みもなく研究室に通っていました。卒業研究は普段の実習の延長線上にあると考えられます。これから始まる3年間の実習では大量のレポートを作成しますが、レポートを書く過程で次のことを実践することをお勧めします。まず、実習ノートを作ることです。卒業研究ではその日に行ったことをノートに記し、後で見直すことがあります。実習レポートを作成する際にも実習ノートがあると書きやすいと思います。次に、「考察」を良く考えて書くことです。レポートは目的・方法・結果・考察・参考文献という構成になっていて、「考察」は結果から考えられることを書きます。実習では教科書に記載されている内容を行うので、自分で新たなことを考えるのは難しいと思いますが、教科書と比較したり、他班の結果と比較したりといろいろなことを考えてみると良いと思います。最後に、「参考文献」を付けることです。レポートを書く上で参考にした文献を「教科書」、「医学図書館の基本図書」および「医学図書館の1階にある図書・雑誌」の3つに分けると、記載されている内容の詳しさはそれぞれ異なっています。図書館にはたくさんの図書・雑誌があり、目的の文献を検索する方法を知っていると便利です。図書館のホームページだけでなく、医学中央雑誌やPubMedといった検索方法もあるのでどんどん利用してください。1年生のうちに、これらの検索方法に関する図書館の講習会に参加すると良いと思います。

以上、皆さんに良いスタートを切っていただくべく、私の反省をもとに述べさせていただきました。これからの4年間、医療科学主専攻を皆さんが肌で感じてみてください。

